

大解剖

東京藝術大学 日本画研究室展

11月17日(水)～11月22日(月)

神戸阪急 本館9階 催場

神戸市中央区小野柄通8-1-8

☎078(221)4181



植田一穂「ワビスケ」2011年 紙本彩色 91.0×116.7cm



海老洋「六角形の家」2015年
絹本彩色 116.7×72.7cm



斉藤典彦「WL-003W」2021年
絹本彩色 116.7×80.3cm



宮北千織「朽ちた沼」紙本彩色 101.0×86.0cm



吉村誠司「ハシビロコウ」2019年
紙本彩色 100.0×72.7cm 個人蔵



高島圭史「旅人の肖像」2019年
紙本彩色 113×90cm



天然岩絵具の原石、藍銅鉱(アズライト)(右上)、
膠(左上)、筆(下)なども併せて展示する。
撮影:橋本憲一

数多くの高名な画家を輩出してきた東京藝術大学。前身の東京美術学校は1887年(明治20年)に創立されており、伝統技術を継承しながらも「現代絵画の創造」を目指して日本画の確かな発展を支えてきた。

現在の東京藝術大学日本画研究室は、第一研究室、第二研究室、第三研究室という3つの研究室に分かれている。それぞれの研究室が切磋琢磨することで、常に日本画壇を牽引する実力派作家が生み出

され続けている。今展はそれぞれの教授と准教授の代表作のほか、講師や助教、教育研究助手たちによる意欲作を交えて、総勢20名による展覧会である。

さらに日本画についてより深く知ることができるよう、天然岩絵具や膠、和紙、筆といった、日本画を描くために必要な画材なども併せて展示する。日本の伝統文化と地続きにある日本画の愛好家のみならず、初めて触れる鑑賞者にも極めて貴重な機会になるだろう。

(編集部)

出品作家

第一研究室：植田一穂 海老洋 長澤耕平 重政周平 伊東春香 杉山佳
第二研究室：斉藤典彦 宮北千織 川崎麻央 石原孟 澁澤星 澤崎華子 古山結
第三研究室：吉村誠司 高島圭史 松岡歩 吉田侑加 山田雄貴 森友紀恵 岩谷晃太